

平成 27 年度第 2 回緑区支え合いのまち推進協議会議事要旨

【開 催】

開催日時 平成 27 年 9 月 26 日（土）14：00～16：00

開催場所 緑保健福祉センター2 階 大会議室

出席者 委員 22 名中 17 名出席、ガイドヘルパー1 名
千葉市保健福祉局地域福祉課 2 名、事務局 7 名（緑保健福祉センター長、
高齢障害支援課 3 人、社協緑区事務所 3 名）

【次 第】

- 1 開会
- 2 議題
 - （1）平成 27 年度 緑区支え合いのまち推進計画 進捗状況について
 - （2）広報誌「みどりのきずな第 26 号」の承認について
- 3 推進協ミニ講座 第 2 回 千葉市あんしんケアセンター事業紹介について
- 4 連絡事項
- 5 閉会

【議事及び質疑要旨】

議題（1）平成 27 年度 緑区支え合いのまち推進計画 進捗状況について

主な発言内容は以下のとおり。

各地区部会エリアにおける計画進捗状況についての説明

（誉田地区部会・鳥山委員）身近な生活支援ということで高齢者の見守りをしていくことにしているが誉田は遅れていると思う。まずは鎌取地区で進めている。3 年計画でさらに 1 町内自治会を増やす計画でいる。

（椎名地区部会・本田委員）椎名地区の報告と計画について説明する。5 月の初めに第 3 期計画の重点項目の進行管理表を策定した。活動主体としては地区部会以外の団体も巻き込んで実施していく。地域と学校との交流として 6 件の活動をする。見守り活動の推進としては 1 件の新規実施地区を増やす。8 月 23 日には小学生と一緒に見守り活動についての情報交換会を行った。第 1 回は参加者が少なかった。第 2 回は 12 月に開催する予定でいる。子ども達と挨拶運動など自分たちでできることは何かを中心に話し合いをしていく予定でいる。

（岡本委員長）地域と学校との交流では、障害者や認知症についての学習を子ども達と行う予定でいる。椎名小学校 6 年生が明日生涯学習センターで千葉県のユネスコ大会で地域の伝承文化として鞆鼓舞を発表することになっている。見守りについては講師をお呼びしての勉強会を企画している。若い

人の見守りへの意識をどう高めていくか考え計画している。

(土気地区部会・峰村委員) 土気も重点事業として4中学校区地区自治会・民児協・社協とで見守り活動を推進している。取組内容としては見守り活動に取り組む地域を増やしサロン活動も充実していこうとしている。現状2自治会で見守り活動を実施している。高齢化率が40%を超えているところもあるので町内自治会と一緒に働きかけしていく。同時に19の会場でいきいきサロンを実施しているがもっと会場を増やしていく。地域の支え合い活動への進展も諮っていく。27年度としては地区としての「基本的な考え方と具体的な方法」がそれほど理解されてはいないので、地区内で取り組んでいる自治会の先行事例とともに、機会ある度に情宣して見守り活動の必要性の理解と取組みへの喚起に努め、拡大を図る。見守り活動として孤独死や孤立化の防止のレベルで考えるだけでなく、同時に見守り対象者を減らし、遅らせる視点からの取組みが重要である。それには、張りのある生活が送れるよう19会場で実施している「いきいきサロン」の活動を表裏一体のものとして、その意義の理解と活動の拡充を図る。担い手としては福祉活動推進員の増員も考えている。

(おゆみ野地区部会・中村輝男委員) おゆみ野地区は高齢者集う場の開設・拡充を重点項目としている。おゆみ野地区内には高齢者が増えてきている地域もあるので高齢者に重点としている。おゆみ野は散歩コースが充実しているのでその道を使っただけの散歩クラブを立ち上げ推進している。体の不自由な方にも参加してもらえるように工夫している。25年度からスタートしているが回数を増やし、参加される層を厚くしていく。10月に2回目を実施し大百池をまわり、八剱神社まで歩く予定でいる。コースを体調によって2つに分け設定する工夫をしている。さらに回数や参加者を増やしていきたい。地区連協にも協力してもらい参加者の増員を図っていくことを考えている。

(松戸副委員長) 地区連協会議で中村委員から説明してもらいたい。

(小林委員) 今年度から推進協に参加している。私は障害福祉施設で勤務している。主に身体障がいの方に日中活動の場を提供している。同法人内に障害者支援施設も併設しており入所して日々の生活を送る場がある。障害者へのサービス提供と地域福祉を進めている。地域に何かしら貢献していきたい。土気駅前の福祉フェスティバルや緑区ふるさと祭りに出店している。また私はPTA役員を経験しているが、ノーマライゼーションを進めるうえで心のバリアフリーの必要性を感じている。学生の実習生を受け入れているが、社会福祉の大学生は障害者への接し方を勉強しているが、教員になるための実習で来た生徒は必ずどうやって接すればいいか聞かれる。人とみる前に障害者という偏見が出来ている。その際は真っ白な気持ちで接してくれと説いている。障がいが不自由な部分だけ手伝ってくれと言っている。5日間の実習で大分偏見はなくなり実習を終えていくが、小さいうちから障害者に接する機会は大事だと思う。椎名地区での福祉教育に是非協力していきたいと思っている。

(中村和委員) 中村委員に伺いたい。4回の散歩クラブの費用はどのくらいか。

(中村輝委員) ボランティア委員会が主催している。予算は多額ではなく、お茶と消耗品程度である。車いすも借りているので費用はほとんどかかっていない。

(廣田委員) 土気地区の住民なので伺いたい。2つの地区の見守り地区はどのような理由で始めたのか。高齢化率が高いからか、それとも協力体制が作れたからか。これから始める地区への対応はどのようなものか。

(峰村委員) 土気では見守りを実施していく各町内自治会を単位で考えている。土気地区部会では見守り実施していくうえでのスケジュールや体制の枠組みを策定した。各町内自治会で進める際には相談してほしいとしている。2つの自治会は大椎台とあすみが丘第1自治会で進めている。大椎台は40%を超える高齢化率である。そこでは任意団体で助け合いの会があった。任意団体ではなく自治会で何かできないか役員で話し合いが進められて福祉委員会を立ち上げた。町内でアンケートをしてボランティアと見守りをしてほしい人を募った。ボランティアは40人、見守ってほしい人は10人だった。その後辞退した人もいたので8人を見守る形で今年度スタートした。数人で班を編成し見守りをしている。見守りの内容も高齢者と民生委員が打ち合わせをして決めた。9月で半年たつので10月に中間報告会が行われる予定でいる。本来見守りが必要な人が手を挙げていないという課題もあるが、まずスタートしてみて徐々に住民に周知することになっている。

(岡本委員長) 小林委員に伺いたい。具体的に椎名地区に対してどのような連携がとれるか教えてほしい。

(小林委員) 障害者のクラブ活動として手話サークルや音楽クラブがある。手話ダンスやハンドベルを披露できる。車で椎名まで行くことも出来る。高学年の子ども達との交流が可能である。

(鴨 委 員) 高齢者の方たちを相手にしようとしているがニーズを把握できているか、本当にポイントとなっているか。ひきこもりをしている人は何を考えているか。こちら側の推測でこのようなテーマを選んでいないか。色々な見守りがあるが、ニーズを汲み取れているかの心配がある。障害者も同様である。偏見もあるが、健康的な面もたくさんあるので、そのあたりからアプローチしてもらいたい。見守られる人のニーズや考え方は多様化しているが情報があれば知りたい。見守りありきで考えていないか。

(松戸副委員長) 各地区での考え方はどうか

(峰村委員) 全てのことに対応するのは難しいが、土気地区部会でまず交流する場を設けて、身体老化や認知症を遅らせる趣旨で実施している。その中でさらに重点項目として高齢者が増えてきているので見守りを重点にしている。40%の高齢化率を超えている。1か月間放置された孤立死も実際にあった。手を上げない人を見守るのは難しいが、様々な事業をしているので声を出してくれという体制は作ってはいる。盤石なスタートではないがそのような考え方をしている。

(鴨 委 員) 孤立死は精神障害者にも起きている。高齢者だけの問題ではない。きめ

細かく展開してもらいたい。

(峰村委員) 大椎台は高齢者だけのアンケートではなく全住民にしている。

(松戸副委員長) 各地区部会では鴨委員の意見を踏まえた考えを十分配慮して対応してもらいたい。

(廣田委員) 千葉市身体障害者連合会の活動報告をしたい。第 21 回障害者作品展を 10 月 7 日から 9 日まで千葉駅近くのツインビル 2 号館 5 階の市民サロンで開催している。市内在住の障害者の作品が展示されている。障害当事者が見てもとても素晴らしい作品が並んでいる。第 17 回障害者福祉大会を 12 月 5 日に千葉市ハーモニープラザで開催する。千葉市にも入所通所施設がたくさんあるが、そのような施設の紹介や和歌山県で行った全国障害者スポーツ大会の千葉市代表選手の紹介と成績発表、障害者の方の体験発表、またお天気キャスターの気象予報士森田さんの講座がある。10 月の市政だよりに観覧希望の記事が出るので参加してほしい。障害当事者を学校に派遣し子ども達の交流も進めている。千葉市身体障害者連合会事務局がハーモニープラザにある。電話が 2 0 9 - 3 2 8 1、是非連絡してほしい。

議題（２）広報誌の承認について

主な発言内容は以下のとおり。

(中村和委員) 広報部会で原稿を作り最終案を提示したい。本日承認してもらえれば 10 月中旬までには発行したい。

推進協ミニ講座

第 2 回 千葉市あんしんケアセンター事業紹介等

講師：千葉市あんしんケアセンター鎌取・誉田・土気

主な発言内容は以下のとおり。

(岡本委員長) あんしんケアセンター鎌取は、椎名地区とおゆみ野地区が担当だと思うが、椎名に認知症や精神疾患は何件くらいか。また認知症サポーター養成講座はどのようなものか。

(あんしん鎌取) 鎌取で 108 件のうち、椎名の件数は後程お伝えする。養成講座はオレンジリングを証にしている。1 時間程度の講座である。国の認知症オレンジプランという施策で地域での見守りを進める目的で認知症サポーターを増やす講座である。キャラバンメイトが地域に出向いてサポーターを増やしている。1 回受講した方にはオレンジリングを配布している。千葉市のホームページやあんしんケアセンターに申し出てほしい。学生向けにも養成講座を展開している。

(鴨 委 員) 相談内容で、精神疾患とあるが、具体的にはどのような相談か。精神疾患者には家族会でも相談会をしている。

(あんしん鎌取) うつ病、統合失調症、病名が付いてない方もいる。

(廣田委員) 土気地域でマッサージ業を開業している。高齢者が多く来る。20 年開業しているが、ロコモシンドロームがとて増えている。ラジオ体操もされているのでありがたく思う。私は視覚障害をもっているが、65 歳までは障害者へのサポートサービスを受け、65 歳からは介護保険が優先になると思う。介護認定を受ける時に食事はできるかという質問がある。食事動作はできるが、食材の場所が分かって初めて食事ができる。着替えにしても着るものが用意されて初めてできる状態である。2 次判定でケアマネの意見を書くと思うが、各個人にあった配慮として障がいの特性を学習してほしい。

(あんしん誉田) 認定調査については調査項目がたくさんある。各区に認定調査員がいる。その方が訪問して高齢者のお話を聞く。食事や着替えについては手足が動くかということやその条件が整えばできるかは特記事項に入れるが、ケアマネージャーに参考意見を聞くというのはケースバイケースである。基本的には調査員の調査票と医師の意見書で審査になる。

(岡本委員長) 刈田子町にうつの方がいるが、本人から相談がないと動けないか。そういう人にはどうすればいいか。

(あんしん鎌取) 相談したいと思わない人、周りが心配している方は多くいる。あんしんケアセンターから突然電話をすることはできない。まわりの方がその方に情報提供してもらい、もし本人の意欲がなければ本人の承認をもらえればあんしんケアセンターが関わりやすい。

(岡本委員長) そこまでできればいいが閉じこもっていてそのような話ができない。

(鴨 委 員) セルフケアという観点で本人に自覚を促すことはしていないのか。精神保健福祉士は在籍していないのか。

(あんしん誉田) 精神保健福祉士は必ずしもいない。65 歳以上であれば民生委員のリストに入っていると思う。65 歳以下で介護保険の認定 15 項目の病気でない方はあんしんケアセンターの対象外になる。実際はすごく増えているがそのような方は健康課の保健師につなげるようにしている。

(鴨 委 員) 健康課から精神の方が外に出られるような場を作ってほしいと依頼を受けている。会報を作り精神障害者家族会に一回来てほしいと P R している。市も困っている。これからの課題だと思う。

連絡事項

(事 務 局) 第 3 回は 12 月 19 日 (土) 午後 2 時からこの会場で開催する。本日の会議終了後に広報委員会を開催するので広報委員は残ってほしい。

(中村和委員) 10 月 24 日 25 日に土気駅前バースモールでふれあい福祉フェスティバルを開催する。チラシはまだ配布できないが内容を説明する。毎年 22 団体が参加している。11 時から 15 時半まで 14 団体の演奏や歌の発表が行われる。是非参加してほしい。

委員長が閉会を宣し、第 2 回緑区支え合いのまち推進協議会は散会。